

日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュール 2016年10月1日版 日本小児科学会



ワクチン	種類	乳児期									幼児期					学童期/思春期										
		生直後	6週	2か月	3か月	4か月	5か月	6か月	7か月	8か月	9-11か月	12-15か月	16-17か月	18-23か月	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳以上			
インフルエンザ菌b型 (ヒブ)	不活化			①	②	③					④ (注1)															
肺炎球菌 (PCV13) (注2)	不活化			①	②	③					④		(注2)													
B型肝炎 (HBV)	不活化			①	②					③													(注4)			
	ユニバーサル (注3)			①	②					③																
	母子感染予防	①	②							③																
ロタウイルス	生			①	②																		(注5)			
	1価			①	②																		(注6)			
	5価			①	②	③																				
ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ (DPT-IPV, IPV) (注8)	不活化			①	②				③			④ (注7)											(7.5歳まで)			
BCG	生							①																		
麻疹、風疹 (MR)	生											①										② (注9)				
水痘	生											①		②									(注10)			
おたふくかぜ	生											①										② (注11)				
日本脳炎	不活化														①	②	③					④ 9-12歳				
																							(7.5歳まで)			
インフルエンザ	不活化																						毎年(10月、11月などに) ①②	13歳より①		
二種混合 (DT)	不活化																						11歳 ①	12歳		
ヒトパピローマウイルス (HPV)	不活化																						(注12)	小6	中1 ①②③ (注13)	中2-高1

定期接種の推奨期間
 任意接種の推奨期間
 定期接種の接種可能な期間
 任意接種の接種可能な期間
 添付文書には記載されていないが、小児科学会として推奨する期間
 健康保険での接種時期



 定期接種
 健康保険での接種
 任意接種

ワクチン	種類	標準的接種年齢と接種期間	日本小児科学会の考え方	注意事項
インフルエンザ 菌b型(ヒブ)	不活化	①-②-③はそれぞれ27-56日(4-8週)あける ③-④は7-13か月あける	(注1) ④は12か月から接種することで適切な免疫が早期に得られる。1歳をこえたら接種する	定期接種として、①-②-③の間はそれぞれ27日以上あける 7か月-11か月で初回接種：①、②の後は7か月以上あけて③、1歳4歳で初回接種：①のみ 定期接種として、①-②-③の間は27日以上、③-④の間は7か月以上あける リスクのある患者では、5歳以上でも接種可能
肺炎球菌 (PCV13)	不活化	①-②-③はそれぞれ27日(4週)以上あける ③-④は60日(2か月)以上あけて、かつ、1歳から1歳3か月で接種	(注2) 定期接種で定められた回数以上のPCV7接種を終了した6歳未満の児は、最後の接種から8週間以上あけてPCV13の追加接種を1回行う(ただし任意接種)	7か月-11か月で初回接種：①、②の接種後60日以上あけて1歳以降に③、1歳-23か月で初回接種：①、②を60日以上あける、2歳4歳で初回接種：①のみ 注2) PCV7の接種が完了していないものは残りの接種をPCV13で実施する
B型肝炎(HBV) ユニバーサルワクチン	不活化	①生後2か月 ②生後3か月 ③生後7-8か月 ①-②は27日(4週)以上、①-③は139日(20週)以上あける	家族内に母親以外のHBVキャリアがいる場合は、生後2か月まで待たず、早期接種が望ましい	(注3) 2016年4月1日から9月30日に生まれた児も定期接種の対象となる (注4) 乳児期に接種していない児の水平感染予防のための接種、接種間隔は、ユニバーサルワクチンに準ずる
B型肝炎(HBV) 母子感染予防のためのワクチン	不活化	①生直後 ②1か月 ③6か月		母親がHBs抗原陽性の場合 出生時、ワクチンと同時にHB免疫グロブリンを投与する 接種費用は健康保険でカバーされる 詳細は日本小児科学会ホームページ「B型肝炎ウイルス母子感染予防のための新しい指針」 http://www.jpeds.or.jp/modules/activty/index.php?context_id=141 を参照
ロタウイルス	生	生後6週から接種可能。①は8週-15週未満を推奨する 1価ワクチン(ロタリックス®)：①-②は、4週以上あける(計2回) 5価ワクチン(ロタテック®)：①-②-③は、4週以上あける(計3回)		(注5) 計2回、②は、生後24週未満までに完了すること (注6) 計3回、③は、生後32週未満までに完了すること
ジフテリア、百日咳、破傷風、ポリオ(DPT-IPV、IPV)	不活化	①-②-③はそれぞれ20-56日(3-8週)あける (注7) ③-④は6か月以上あける。標準的には③終了後12-18か月の間に接種		定期接種として、①-②-③の間はそれぞれ20日以上あける (注8) 2016年7月15日以降、三種混合ワクチンは製造されていない 2012年8月31日以前にポリオ生ワクチン、または、ポリオ不活化ワクチンを接種し、接種が完了していない児への接種スケジュールは、厚生労働省ホームページ http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/d/leaflet_120601.pdf を参照
BCG	生	12か月未満に接種 標準的には5-8か月未満に接種	結核の発生頻度の高い地域では、早期の接種が必要である	
麻疹、風しん(MR)	生	①：1歳以上2歳未満 ②：5歳以上7歳未満 (注9) 小学校入学前の1年間		麻疹曝露後の発症予防では、麻疹ワクチンを生後6か月以降で接種可能、ただし、その場合、その接種は接種回数には数えず、①、②は規定通り接種する
水痘	生	①：生後12-15か月 ②：1回目から6-12か月あける	(注10) 水痘水疱患で接種していない児に対して、積極的に2回接種を行う必要がある	定期接種として、①-②の間は3か月以上あける 13歳以上では、①-②の間を4週間以上あける
おたふくかぜ	生	①：1歳以上	(注11) 予防効果を確実にするために、2回接種が必要である ①は1歳を過ぎたら早期に接種、②はMRと同時期(5歳以上7歳未満で小学校入学前の1年間)での接種を推奨する	

ワクチン	種類	標準的接種年齢と接種期間	日本小児科学会の考え方	注意事項
日本脳炎	不活化	①、②：3歳、①-②は6-28日（1-4週）あける ③：4歳、①から1年あける ④：9歳（小学校3-4年生相当）	日本脳炎流行地域に渡航・滞在する小児、最近日本脳炎患者が発生した地域・ブタの日本脳炎抗体保有率が高い地域に居住する小児に対しては、生後6か月から日本脳炎ワクチンの接種開始を推奨する（日本小児科学会ホームページ「日本脳炎り患リスクの高い者に対する生後6か月からの日本脳炎ワクチンの推奨について」 http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=207 を参照）	1回接種量：6か月-3歳未満：0.25mL、3歳以上：0.5mL 定期接種では、生後6か月から生後90か月（7歳6か月）未満（第1期）、9歳以上13歳未満（第2期）が対象、①-②は6日以上、③は②より6か月以上の間隔をあける 2007年4月2日から2009年10月1日生まれの児に対しては、生後6か月から90か月（7歳6か月）未満または、9歳から13歳未満の間に1期（①、②、③）のうち、木接種回数を定期として接種が可能である 2005年5月からの積極的勧奨の差し控えを受けて、1995年4月2日から2007年4月1日生まれの児は、20歳未満まで定期接種の対象、具体的な接種については厚生労働省ホームページ http://www.mhlw.go.jp/buwa/kenkou/kakaku-kanisshou20/annai.html を参照
インフルエンザ	不活化	①-②は4週（2-4週）あける		13歳未満：2回、13歳以上：1回または2回、 1回接種量：6か月-3歳未満：0.25mL、3歳以上：0.5mL
二種混合（DT）	不活化	①11歳から12歳に達するまで		予防接種法では、11歳以上13歳未満
ヒトパピローマウイルス（HPV）	不活化	中学1年生女子 2価ワクチン（サーバリックス®） ①-②は1か月、①-③は6か月あける 4価ワクチン（ガーダシル®） ①-②は2か月、①-③は6か月あける	2013年6月より、積極的接種推奨が中止されているが、HPVワクチンの有害事象の実態把握と解析、接種後に生じた症状に対する報告体制と診療・相談体制の確立、健康被害を受けた被接種者に対する救済などの対策が講じられたことを受けて、積極的接種を推奨する（予防接種専門推進協議会ホームページ http://vaccine-kyosikai.rmin.jp/pdf/20160418_HPV-vaccine-opinion.pdf を参照）	接種方法は、筋肉内注射（上腕三角筋部） 予防接種法では、12歳-16歳（小学校6年生から高校1年生相当）女子 （注12）2価ワクチンは10歳以上、4価ワクチンは、9歳以上から接種可能 （注13）標準的な接種ができなかった場合、定期接種として以下の間隔で接種できる（接種間隔が2つのワクチンで異なることに注意） 2価ワクチン：①-②の間は1か月以上、①-③の間は5か月以上、かつ②-③の間は2か月半以上あける 4価ワクチン：①-②の間は1か月以上、②-③の間は3か月以上あける